

# 統一

號三十九百第

人格本位と教義本位

文學博士 三宅 雄二郎君

日蓮主義と國士

大僧正 本多日生師

## 人格本位と教義本位

明治十四年一月二十二日天晴會講演

文學博士

三宅雄二郎君

近頃聞く所によれば日蓮宗の或部分に於て、天晴會は日蓮上人の人格を主として居つて教義の事を構はない、よし構ふにしても重を置いて居ない、世間が上人の人格を重んじて来たから人格で以て引附けやうとするのであらうけれどももう少し教義の方を修めるが善い、眞宗の方で浩々洞の人達は教義を修めて居る、日蓮宗でもそろ云ふ風にせねば不可ぬと主張する人があると云ふ事である、そして天晴會が上人の人格に重を置いて居ると非難する人は若い方にあると云ふ事である自分は委敷い事は知らぬが、天晴會は果して上人の人格に重を置いて教義を軽んじて居るであらうか、明白には知らぬが勿論人格と教義と并び依つて益する事と思ふ、一方に片寄つて居るのであらうか、外から見て居る人には人格に重を置いて教義の方を軽く見て居るやうに見えるかも知れぬ、併し人格に重を置くのと教

## 日蓮聖人云く

されば法は必ず國を審みて弘むべし、彼の國に好りし法なれば此の國にも好るべしとは思ふべからず。

又云く

佛法やうやく頗倒しければ、世間又渦亂せり、佛法は體のことを世間はかけのごとし、體曲れば影不認めなり。

義に重を置くのとちらが善いかと云ふと人格と教義が並び行くならば其が一番善いが、事情に依りて人格の方に重を置く様になつたら惡るいかと云ふに必ずしも悪くは無いと思ふ、假令泥坊が唱へた天文でも理窟に合つて居たならば服せねばならぬ、同じ學術でも倫理學の如きものは人格に關係がありますが、それで泥坊の云つた言に耳傾くる價値のあるものがある、スマフ一般の學術はそら人格を訊さなくとも善い、道理さへよければよい、所が宗教では人格と教義とが密接して居つて如何に善い事でも唱へた人が惡るいと信せられない、宗教は其の説を聞いて信じたいと云ふ心が起らねばならぬ、彼の維摩經は誰が作つたものであるか確に分らない様であるが、島尾得庵居士はあれは釋迦が作つたものである釋迦でなければあれ丈けの名文が出來ぬと云つて居る、随分勝手な議論であるが維摩經が若し下らぬ人の手に成りしならば今日人が重を置くかどうか、得庵居士は強いてでも釋迦にしたかつたのである、宗教の上ではどうしても人格と云ふ

ことが缺けてはならぬ、教義ばかりでは普通の學術のやうに取扱はれる、其の教義を唱へたものに就ては隨分議論があつて歴史的の穿鑿に依れば疑問がある、幸い徳が基督抹殺論を作つたそつだが之で議論が盡ざる譯ではないか、基督教にして若し經文だけあつて基督教が無くては難有くない、歴史上には基督は確でないが人の罪を負ふて磔になつたと云ふ事實があつて難有味があるのである、宗教の方では作つた人、唱へた人、人が關係して難有く見ゆるのである、日蓮宗亦然りで、日蓮上人の人格を抜きにして教義ばかりであるならば、言ひに難有味を減する譯である。

それから教義は時代が進むに従ひ疑ひか遁入つて来るが人格はそう變るものではない、人智の進方は何萬年と云ふ所から見れば人が進んで居るが何千年と云ふ所では人格に相違が無い、何千年と云ふ間は肉體も精神もそう變化を及ぼさぬ、釋迦牟尼が二千何百年前に出られたにしても亦た今日出られても矢張り偉らしいのである、が教義となるとそつは行かぬ、假令へば書のがある、親鸞聖人は後に考へるやうな者でないと云ふ説もあつてツマリ分つてゐない、然るに日蓮上人の人格は分かる、充分ではないが他の宗教家に比して能く分かる、あれ丈け頭に浮べ得る人は他にそうなからうと思ふ、教義は姑く置いても人格丈けでも後人をして斯く斯くあらしむと思はしむるものがある、それから人格が後々迄分かるにしても現代に左程用がないものもある、巖石の上に修行して一生涯山の中に居たと云ふ事が明瞭に分つて居つてもその云ふ人格は今更らどうして見やうがない、親鸞聖人の如きも假令其の道行が詳しく分つて居るにしてもアゝ云ふ謙遜と云はうか、當らず障らずの柔かな調子は人間に有り度い事ではあるが、日本人を擧げて皆な親鸞聖人のやうな人ばかりであつたとすれば日本は持つて行けない、今日の日本では全體どう云ふ人格が必要であるかと云ふ事になれば六ヶ敷くなるが、先づ他の國との關係がある時と無い時とを辨へねばならぬ、他の國との關係が無い時代ならば親鸞聖人のやうな人でもよい、又た山の

経は疑ふべきものであつて周の武王の行や言は善くない悪いものであるとの説があるが、孔子は其武王を何かの引合に出されて重じて居られる、書經は少くとも後に疑を挿まれる所が多い、宗教と云ふ程の事でなく學術上の事では猶更らの事で百年前のものは價值が減つて居る、その人は矢張り偉らい、ニュトンが云つた光の間違ひである事は小學校の生徒でも知つて居るがニュトン程の頭の者は無い、宗教は夫程でないけれども後に常識まらぬものが随分ある、日蓮上人の書かれたものでも、今日誰れでも知つて居る事で當時知られなかつた事がある、だから徹頭徹尾上人の唱へられた通りでなければならぬと云ふのは不可ない、併し上人の人格となると其れに相當する人を見附ける事が六ヶ敷い、併し時に依ると人格は分らないが教義ばかり残つて居るものがある、親鸞聖人の如きはそれである、親鸞聖人の教義はあるが人格に就ては分らぬも中で經を讀んでゐてもよいが、今日そつと云ふやうな事をして居たならば外國が遠應會釋なくどうでも勝手にして了ふ、だから現代の人間に説き勧める便利上と云はゞ失禮であるが、人に斯くあれと導く場合其の見本として示すには、日蓮上人を出すがよい、上人をダシに使ふと云つては可笑しいが、眞面目な意味でダシに使ふがよい。

近頃、各國と云ふても事情が違ふが、最も我が日本と關係の密接して來るのは米國である、歐羅巴でも關係が増しては來るが關係の善いのもあり悪いのもあつて先づ今日日本との關係の益を進んで來るのは米國である、そして米國が其人民に對してどう云ふ事を勧めて居るかと云ふにルーズベルト氏が方々で述べて居る所を見ても分る、アメリカ人に對して弱くては不可決心が強くなくては不可ぬ無論無暗に強がるのは不可ぬと云つて親切も勧めるのであるが、要するに何處までも強くなければならぬと云つて居るのである、所が日蓮上人の言、言で面白くなれば上人の行がアメ

ヲカで勧めて居る人達に似て居る、米國人は必ず日蓮上人の全分を眞似て居るか或は金の方ばかりに力が入つて居らぬかと云ふにそう力の事ばかり云つて居らず力を伸ばすと云ふ所にある、そう矢餌に力を伸ばすと云ふのは日蓮上人の言行と云ふ比例になるかと云ふ事は云ひ難ひが自分の信する所を屈せず撓まずやらねばならぬと云ふ所が似て居るやうに思ふ。

米國では强くなつては不可と導かるゝ爲めに神經衰弱になるやうな傾きがあるが日蓮上人は神經衰弱になるやうな事を勧められるでしやうか、上人をダシに使ふと云ふ事は言葉遣ひの上の弊であつて現代はどう云ふ風にあれど云ふべきかと云ふに日蓮上人のやうにあれと云ふ事は今日の如き國の關係の時には適當の事を着ける人は勇氣と云ふ事に氣を附ける、論語に智仁勇の三を説く勇を第三に置くのは偶然かも知れぬが勇を先きに置くべきであらうと思ふ、然るに此頃は勇氣の必要を云ふのは年寄の方は多くて若い者は反對しや

可ぬドシ／＼進さねばならぬと云ふべきであるのに、今は之が反對して居るのはどう云ふ行違ひであるか、若い方にはどう云ふ事になつて居るか分つて居らぬからであらうから、もう少し物心が分つて來ると自分の云ふやうになるだらう、寧ろ若い人達が日蓮上人のやうにならうと思つても差支ないのである、人格の方で上人のやうになる書物は後廻はしだと云ふ風になるのが至當だらうと思ふ、時勢の變遷は随分早いものであつて、今日は日本の國內を考へるばかりでは不可ぬ事は勿論だが、強い國と如何に競争すべきかと云ふ事ばかり考へず亞細亞の末だ開けぬ人々と意思疎通を計つて見やうと思ふ人も隨分出來て來て、マホメット教を奉じやうと云ふ人が出來、それになつた人があるので、基教國よりも同教國が開けぬにしても、宗教として信するにはマホメット教の方が善いと云ふものがある、恁う云ふ風だから今後マホメット教は今日よりも日本の社會に知られるやうになるだらうマホメット教は開けない國に起つた宗教であるが經文として詰らぬもの

うとする、日蓮宗でも若い方が教義の事を云ふ、若い者が書物ばかり見て居るやうでは困つたものだ、道樂的に本を讀んで居れば氣樂ではあらうが瘦せこけたものになつて了ふ、瘦せこけると云ふのは身體の事ではなく精神が全體淋しい調子になる基督教にも近頃面白くない怎う云ふ傾向があるが其中に在つて唯獨り世間の人々印象を與へて居るのは救世軍である、人はアノ行動を見て笑つて居るが實際は功能がある、ア、云ふものが出土たのは現代にア、云ふ必要があるからである、會堂で泣眞似のやうな事をして居るのは最早段々廢つて行くのである、そう云ふものに引つかれて居るものはズン／＼時代から取り残されてしまふ、それであるから日蓮上人の人格が巖穴の中に在つて經文を讀んで居ると云ふやうであるならば人格よりも教義に重を置くべきであるが、現代に缺くべからざる人格があり乍ら其れを輕んじて教義に重を置かんとするのは随分殘念なことである、順序から云へば年寄の方が無暗に突進しては不可ないと云ひ若い方が弱くなつては不

であるかどうか研究すべき餘地がある、多數の人が信せずとも少數でも日本人が信する事になると日蓮宗でもマホメット教を全く離れたものと見る必要がない、同盟／＼日蓮宗の爲めにはマホメット教が日蓮宗になると云へば目出度いのであるが、そうでなくとも、恁う云ふ風に今は向いて來て居るのだからお經ばかり讀んで居ては不可ぬ、だから教義丈けに重を置いて人格を軽んじては不可ぬ、寧ろ人格だけでもつて充分なる感化を多數に及ぼし得るのである。

此頃、天晴會は上人の人格と云ふ事で人を引付けて居るがそれは日蓮宗の本位でないと云ふ者があるやうだが、本位不本位は誰これが極めるのであるか、自分が極めるのである、上人の人格に依つて吾々の人格を高めんとすることは必要と云はれない迄も不需要で無いとは云へる、上人は妻子もなく頭を剃つて居られるが、上人の人格をと云つたとて凡ての人をして上人のやうに出来ないと云ふ者があるが、そう云ふ事を云ふ者は宗教家たるの資格の無いもので、全體を日蓮上人

のやうになれと云ふ事は善いと思ふ、これは局外者  
の見方であるが、局外者は上人の善い處を發揮し  
足らないと思ふ所は補つて行かねばならぬと思ふ、而  
してもう一層上人の人格を多數の人の頭に這入るやう  
にして貰ひ度ひとと思ふ。

## 日蓮主義と國士

(明治四十四年一月二十二日天晴會講演)

本 多 日 生

一、序 言

本會は設立已來丁度満二ヶ年に相成ます。此間何等の故障もなく健全に發達を遂げ得ました。偏に會員諸君の求道の熱誠に因ること存ます。併しながら他面より考へますれば、時代の機運が斯かる精神的の會合を必要と認むるに至つたので、何等の勧誘をも試みませんのに、自然に入會者が増加致しまして、初め四十七人で起つたものが、今日では百七十餘名の會員と相成つた次第であります。是れ皆に本會の光榮に述べきてして、諸君の御指教を仰がうと思ふのであります。

我國國士の本領は如何なるものなりや。各時代に現はれたる國士の異なる色彩は何如に。現代の國士は果して何等の方面に心血を灑ぐべきか。これ等の點を考察致しまして、翻つて日蓮主義に對照致しますれば日蓮主義と國士との間には極めて密接なる關係を有し。現代及び將來の國士としては、天晴地明の大見地に立たねばならぬことが分明すると存ます。

前刻佐藤大佐の御講演中に、日蓮主義が無上莊嚴なる御國體と一致し、御稟威と大德教との融合力は、外に世界の光明となつて發現する由を、御論明致されました。國士と云ふ立脚地より考量致しますれば、この國と道との契合を尊重し、この先天の約束を會得して、思をこゝに致すべきは全然御同感であります。從つて日蓮主義と國士との間に存する因縁の甚深なることが察知せらるゝのである。又三宅博士は日蓮上人の人格に同化することが、國民の缺陷たる勇氣を養ふ

止まりません。實に國家の爲め名教の爲めに慶賀すべき現象と言じます。

本日は前刻來姉崎博士の精神上の問題に就ての。極めて嶄新なる御講演があり。又佐藤海軍大佐の御國體に就ての。最も嚴肅なる御講演があり。更に三宅博士は人格本位と教義本位と題して、日蓮上人の人格は國民全體に學ばしらねばならぬ。それは對外的觀念より見て。上人の人格に同化することの急要なる所以を論述せられたので。最早御駆走が多う過ぎたやうに感じます。私は本日の講演を見合せたがよいと思ひました。幹事の多數が是非やれとのこと故。暫時御容赦願ふのであります。

日蓮主義と國士と云ふ題を擇みました譯は、上人は宗教界の偉人聖者たるは勿論。それと同時に我國國士の好典型であらう。又日蓮主義は宗教として高等の地位を占むるは申すまでもありませんが。他面から考察致しますれば、我國國士の奉戴すべき健全なる理想ではあるまいか。この方面より考察致しました所見を申述べます。

二、國士の本領

國士の本領は果して何如なるものなりや。是れ容易に解答し難きことであります。卒かに斷定するは恐れ多いやうの感がありますが。講演の順序として論定せざるを得ないので、試みに所見を申述べて御批評を仰ぎたいのであります。

國士とは、蓋々匪躬の節を持し、偏に國家の憂を以て憂となし。一身の轉軾に苦心を憂へず。國家長久の隆昌を念とし。未だ常人の憂へざるに先ち。先見の明。能く之を半前に拯ふに在るかと存ます。

國士は無上莊嚴なる御國體を擁護し、尊皇の大義を

抱いて終始すべきは勿論であつて。吉田松陰先生の語に「世態變遷大義存」と申されてあります。眞に萬古を照す格言であります。續し政治の統治形式は封建政治と憲法政治との差はありとも。君主獨裁と代議立法との異はありとも。我が帝國の尊皇の大義は嚴として存して居るのである。縱令世の文明は進みて。幾多の學術と思想とは輸入せらるゝとも。我が帝國の尊皇主義の大本は毫釐も動搖せしむべきでない。世態變遷すとも大義存すとの一語は。國士の造次にも聞却すべからざる第一信條である。

尊皇の大義凜として動かすべからざるは論なき所であります。この尊皇の大義には直ちに愛民の精神が包含せられてあつて。この間に微妙の融合が行はれて居ることを知らねばならぬ。若し尊皇の中に愛民を包含せられあるを知らずして。君民對立を以て進まば。民權と君權との融合を失し。國民の思想に動搖を來すのである。更に考慮を要する點は。今日は個人思想が非常に勢力を占めて居るから。單純に機械的觀念を教へたものと思ふ。

身。猶割股以啖腹。腹飽而身弱。

とありまして。文中の割股啖腹の譬は。微妙の旨致を教へたものと思ふ。

已上の尊皇と愛民との綱紀を振張し施設を完備しやうと致しますれば。之に續いて名教と政治との二大要義の必要が生ずるのであります。

人にして教へ無ければ禽獸の消息に墮ち。民にして教へ無ければその歸向を謬まるは。論なき所であります。一國內に名教の指南巖として存し。國民の上に教化の方針凜とし定まり。戸々人々その國化薰育を被むるを得ますれば。其處に尊皇愛民の實行はれ。敦厚の俗信義の風は自から起るのである。之に反して一國の基督教にして類廢せんか。百科の學術は如何に進歩するとも。工藝技術は如何に發達するとも。軍備經濟二つながら整備旺盛を極むるも。文明の外形は隆盛として昌へ。法律の制度商業の施設は遺漏なきに至るとするも。必らずや斯かる國家はその基礎より動搖を來だし。人心の機微より破綻を生じて。國難は意外に

以て直進すべく。壓迫的に教ゆるとも。効力は極めて少ないので。却つて反抗心を起さする憂ひがある。故に個人思想を包容し満足せしめ得べし。大なる尊皇主義でなければならぬ。愛民の意義を攝取したる尊皇主義でなければ。真正なる意味に於ての尊皇ではあるまいと思ふ。尊皇と愛民とは極めて幽玄微妙の旨致が存して居るので。この尊皇と愛民とが相互に感應し。精神的に實際的に融通して。玄々微妙の運用を存續し來れるが。我が御國體の精華であつて。國士たるもの最も能く神會すべき第二の信條なりと信じます。この尊皇と愛民との融合は。陛下の軍人に賜はりし教諭に分明である。

朕は汝等を股肱と頼み。汝等は朕を頭首と仰ぎてぞ。其親は特に深かるべきと仰せられて。如何にも恐懼に堪へぬ甚深微妙の意味を、御宣示賜られて居るト拜察し上るのであります。六輔には同舟江を濟るに譬へ。貞觀政要には爲君之道。必須先存百姓。若損百姓以奉其

の邊より爆發するに至るのであります。されば國士たるもの恐懼戒慎克く名教を敬重して。國家萬代の基礎をこゝに据へ。時代の思潮と進歩の趨勢とを洞察して。最も包容的にして且つ統一的な名教。最も不朽的にして且つ根本的な名教を確立し。而して之を國民の全般に周知せしめ。如何なる無教育の徒と雖も。我が國民たる已上は。この名教を心得置かしめ。萬一領解し能はざる如き者には。その風を以て之を化育し。その徳を以て之を薰染する底の。教化を起さねばならぬ。古語に、

夫れ人の道あることは魚の水にあるが如し。水を得れば生き。水を失へば死す。

法は體なり國は影なり。體曲れば影斜なり。名教の缺くべからざること夫れ斯くの如くである。されば名教を振張するは國士の第三の信條として數ふべきであらう。

政治は國家の治亂興廢に直接の關係を有し。皇室の

尊嚴を維持し。國體の御稟威を宣揚するも。首として政治の何如に存し。國權を伸張し國威を發揮するも。首として政治の何如に懸り。國民の安寧を保維し各自その處を得て、娘寡孤獨も生を遂ぐると否とは。一に政治の何如に由つて取るゝのである。殊に我が帝國は建國の因縁と建國已來の歴史とに依りて。國憲國法を敬重し。政治法令に柔順なるの民風を馴致す。されば政治の權威は殆んど國事の全般を支配して居るので。教育産業の消長も。德教風俗の厚薄も一に政治の施設と政治家の言動如何に因つて左右せられて居るのである。故に政治の綱紀を張り運用を正すことが。國士の念とすべき第四の信條なりと信するのである。

已上の四大綱目。即ち尊皇の大義。愛民の施設。名教の確立。政治の皇張は。何れも國士が兼々匪躬の節を擣ぐべき要目であつて。この四大綱目が相倚り相扶けて。健全に國家を擁護し得る次第と存ます。若し其の何れかに缺陷を生じたる場合には。衆に先づて之を匡正し。何れの方にも遺漏なからんことを期するにあらず。

と。この書簡は嘉永三年に長崎で認められたもので。時に歳十九歳である。偉人の心懸は別なることが知らるゝのである。この書簡は國士の本領に下したる定義として、敬重すべき文字なりと思ふ。古語に、智衆と同じきは國士にあらず。技衆と同じきは國工にあらず。

と。この語は國士の服膺すべき格言で。尋常の觀察を以て國事を憂ふるは。眞の國士ではない。必らず時弊の根底を探究し。千百歳の前途を透見して。國家をして健全なる發達を遂げしむべく。輩出なる施設を行はねばならぬ。所謂須らく現代を超越せざるべからず。斯くの如くして。始めて國士たるに恥ぢずと信じまする。

### 三、國士の異なる色彩

國士の本領としては尊王、愛民、名教、政治の四大綱目に對して。その何れにも遺漏なきを期すべきは。前段已に論明致せし如くであります。その時代の趨勢とその人の地位とに由りまして。各々異なる色彩

が。所謂國士の本領であると信じまする。

吉田松陰先生の書簡に

古人云々儒生俗吏安知事務。知事務者在俊傑。士太夫の志を立つるや。儒生も俗吏も爲すべき所にあらず。惟俊傑となり得ることを欲するは。固より言を待たざる所なり。然るに書を讀み古今を通識せされば必ず俗吏輩に陥り。又徒らに書肆となれば。即ち亦儒生のみ。兩者皆俊傑の事にあらず。因て寄に俊傑の學何如と求むるに。簡にして要を得るにあり。

明ニ國體。察ニ時勢。養ニ士心。遂ニ民生。審ニ古今明主賢相之事跡。洞ニ萬國治亂興亡之機等の數件を主本として。力を竭して萬巻の書を網羅せば。儒生俗吏の二弊を脱却すべし。

と。この書簡に載する明ニ國體。察ニ時勢。養ニ士心。遂ニ民生。審ニ明主賢相之事跡。洞ニ治亂興亡之機との六要目は。前來數へ挙げたる尊皇、愛民、名教、政治の四大綱目の中に。攝收して見ることが出来るのである。先生の御遺傳語は今更ながら故郷に懐へぬ次第であります。

臣道として尊皇の大義を全ふせる國士は。建武中興の時と明治維新の時とに於て、多く色彩を放つて居るのであります。又日清日露の兩戰役にも多數の國士を出して居るのである。臣道としての心得は。天皇陛下の爲めに身命を擣げて。至誠忠節を全ふするにあるは今更申すまでもないことでありまして。天抑日命が申されしやうに。海行かば水づく屍。山行かば草むす屍。大君のへにこそ死なめ、のとには死など」と心懸け。我が身命は、大君の爲めに捨てん。決して他の事には捨てじとの。純忠決死の觀念であります。建武の時臣道を全ふせる國士は。無論楠公父子を第一に舉ぐべきである。正成は徵臣より起つて。克く中興の大任を果たしたのである。彼が後醍醐天皇の眷顧に對して。合戰の習にて候へば一旦の勝負をば。必ずしも御

覽せらるべからず。正成一人未だ生きて有りと聞召され候は。聖運遂に開かるべし。思し召され候へ」と奉答する所。實に參々匪躬の高節を見るべく。又彼が正行に對する遺訓を見れば。その忠節の眞乎として千歳の下國民を風化す。その功。眞に絶歎の外はないのである。楠二代記に遺訓の五箇條を載するを見るに無道の富貴は恥なり。勤王の志を存して不忠の行をなすこと勿れ。是れ汝が第一の孝行ならん。幼弟を惠みて水魚の恩をなすべし。家子郎従を憐んで。苛令を施すこと勿れ。女性は愚なる者也。毎事母に談すること勿れ。常に學問を怠ること勿れ。

と。その記する所簡にして要。洵に千歳不磨の大教訓である。賴山陽の贊に

其大節巍然與山河並存。足以維持世道人心於萬葉。下と云ふて居る。共に愛民の志を抱けることが見らるゝのである。又名教に就ても楠公は佛教に歸依し。法華經を書寫して皇運の隆昌を祈り。新田氏は甲の前に法華經の要文如來秘密神通之力の八字を彫り戦場には常に之を頂いて居たのである。後醍醐天皇御崩御の光景を拜察致しますれば。當時南朝の國士は。天皇陛下と法華經とを奉戴して居たことが推知せらるるのであります。因に太平紀に載する所を見るに、只生今世の妄念ともなるべきは、朝敵を悉く亡して四海を泰平ならしめんと思計也。朕則ち早世の後は第七の宮を天子の位に即け奉て。賢士忠臣事を謀り。義貞義助が忠功を賞して。子孫不義の行なくば。股肱の臣として天下を鎮むべし。之を思ふ故に玉骨は縕へ南山の苔に埋むとも。魂魄は常に北闕の天を望まんと思ふ。若し命を背き義を輕せば。君も繼體の君に非す。臣も忠烈の臣に非じと。委細に綸言を残されて。左の御手に法華經の五の巻を持せ給ひ。右の御手には御劍を按じて。八月十六日の

古之下。比々之姦雄迭起僅傳數百年者。其得失果何如哉。

と。眞に中道の國士として萬古を照せるものである。次に新田義貞を舉べべきか。彼はその手記に記して云ふ。

爲將者奉上旌下。決意面行。聽運於天。勿尤人也。

と。この語も審思すれば無限の教訓を含み。國士の面目は躍如として現はれて居る。彼れ官軍に屬するの不利なるを知るも。大義を持して終にその節を渝へず。死するの時に至るも。錦の袋に詔書を收めて之を帶びたりと云ふ。その純忠の志。洵に分明である。賴山陽が

百敗不挫。至今凜而有生氣と贊せしは。所以なきにあらず。この楠、新田の兩氏は臣道の國士たるに止まらず。愛民の志に於ても國士たるに背かない。即ち楠公の遺訓には家子郎従を憐んで苛令を施すこと勿れと云ひ。新田氏はその手記に丑の刻に遂に崩御成にけり。

葬禮の御事兼て御遺勅有しかば。御終焉の御形を改めず。棺槨を厚し御座を正して。吉野山の麓藏王堂の良なる林の奥に。圓丘を高く築て北向に葬り奉る。寂寞たる空山の裏。鳥啼日暮。土墳數尺の草。一莖涙盡きて愁盡さす。舊臣后妃泣く泣く鼎湖の雲を瞻望して。恨を天邊の月に添へ。霸陵の風に夙夜して。別を夢裏の花に慕ふ。哀なりし御事也と。この記を讀んで當時の光景を拜察し上るに。皇運の式微を慨すると共に。法華經に因縁の淺からざるを見。無限の感慨を禁するを得ないのである。

明治維新の機運を造りしは。遠く水戸の光圀公が尊皇の大義を唱へしに基くので。藤田東湖の贊に

戰國餘習未盡除。尊皇之道正名之義猶或闕。苟非明其道義以植風教。則安知異日反亂之徒不復藉口北條足利。此公所以深慮。而修史之業所以篤任也。

と。光圀公が尊皇の大義を掲げて大日本史を編纂し。

盛んに順逆の道を講じて士氣を燃起したるの功は。決して没すべきでない。洵に國士たるに耻ぢないのである。水戸齊昭公も亦勤王の國士である。岡千仞の評に烈公負天下重望。上書朝廷論幕史之專橫。以振作四方義氣。遂以是蒙重責。幽憤至死。而所其素養之士争起繼遺志。視死如歸。餘風所動東西群起。遂使我國體復千年前之正。其功比之

楠據金剛山奏回天之功。無甚徑庭也。と。兩公は臣道の國士たるに止まらず。愛民の上にも。名教の上にも。政治の上にも。絢爛たる光彩を放つて居るので。國士中の國士と謂ふべきである。後に他の方面をも紹介しやうと思ふ。

明治維新に於ける尊皇の國士としては。國主に毛利頼親、島津久光、鍋島齊正、山内豊信、伊達宗城、真田幸貫等の諸侯あり。而して信州に佐久間啓あり。鹿児島に小松帶刀あり。三河に渡邊登あり。長州に吉田久坂高杉等の諸氏あり。水戸に藤田由田武田等の諸氏あり。若狭に梅田源次郎越前に橋本左内あり。備前に

あり。又名教と政治の上にも異彩を有すれども。特に君道を闡明せられし功勳は。最も敬慕に堪へぬのである。源親房公も亦尊皇と名教と政治との多方面に國士の面目を存せらるゝが。君道を直言せられたる所に。特殊の色彩を放つて居るのである。神皇正統紀の中に凡そ保元平治より已來の亂りがはしさに。賴朝と云ふ人もなく。泰時と云ふものもなからましかば。日本國の人民いかゞなりなまし。このいはれをよく知らぬ人は。故もなく皇威の衰へ武備のかちにけると思へるは誤なり。所々に申し侍る事なれど。天日嗣は御諱にまかせ。正統に歸らせ給ふによりて。用意あるべき事の侍るなり。神は人を安くするを本誓とする。天下の萬民は皆神の物なり。君は尊とくましませども。一人を樂しまし萬民を苦しむことは。天も許さず神もさいはいせぬいはれなれば。政の可否に随て。御運の通塞あるべしと覺へ侍る。これにまさる德政なくして。いかでたやすく覆へさ

蘇本鐵石播磨に河合宗兵衛あり。京都に賴三樹福岡に平野國臣あり。東北に林友直。高野長英。高山正之。蒲生秀實。雲井神雄あり。熊本に横井平四郎。鹿兒島に西郷隆盛。長州に伊藤博文等を出だす。桑門に三僧めり。周防の月性。京都の月照。日向の胤康なり。三僧は何れも勤王の國士である。或人之を評して僧俊寛とその功を賛みすと云ふ。斯くて明治維新には國士たるもの。南北呼應し東西群起して。以てこの大業を成就したのである。

次に君道の光揚に盡せる國士としては。菅原道真公。源親房公。徳川光圀公。徳川齊昭公等を舉ぐべしか。是れその地位として君道を光揚するを得たのである。菅家遺誠の中に

一凡仁君之要政者。以撫民爲本。民者神明資也。本朝綱教者。以敬神明爲最上。神德之微妙豈有他哉

と。即ち撫民と敬神とを擧げて君道の要諦となし。之を遺誠の最初に掲げられて居る。菅公は尊皇の國士であるべき。たとへ又失はれべくとも。民安かるまじくば。上天もよもくみし給ふまじと。公も亦安民と上天とを擧げて。君道の要諦として居るのである。建武中興の挫折を見て悲憤禁せざる公は。丹心を吐露して君道を唱へたので。實に景仰に堪へざる次第である。賴山陽の評に、

此の比都にはやるもの

夜討強盜謀縞旨

召人早馬虛騒動

本領はなる。訴訟人

俄大名述ひ者

追跡讒人禪律僧

器用の堪否沙汰もなく

文書入れたる細葛。生類還俗自由出家。安堵恩賞廬軍。下対上する威出者。もるゝ人なき決断所

きつけぬ 冠 上のきぬ  
内裏まじはりめづらしや

我も我もと見ゆれども

愚かなるにやおとるらん

組板鳥帽子ゆがめつゝ

たそがれ時になりぬれば

いくそばくそや數不知

人の妻稱のうかれめは

尾羽をれゆがむえせ小鷹

鳥とることは更になし

太刀より大きにこしらへて前さがりにぞ指しはらす

持ちもならはぬ笏持て  
賢者顔なる傳奏は  
巧なりける詐は

爲中美物にあきみちて

内裏をがみと名けたる

氣色めきたる京侍

うかれてありく色好

よその見目も心地あし

手ごとに誰もすえたれど

鉛作のおほ刀

太刀より大きにこしらへて前さがりにぞ指しはらす

じ。専ら心を民政の上に瀝がれたのである。均田の法を實行して貧富の懸隔を除き。疾苦を問ふて之を慰藉し。冤枉を察して法を寬にし。死囚と雖も曲げて生明を求めしと云ふ。或時農にして公の愛育せる鶴を殺すものあり。之を斬らんとす。公諸らく禽の爲めに人を殺すに忍びすと。之を境外に追放せんとす。又謂らく若し資なくば去て盜をなさんと。遂に資を給して之を放ちたりと云ふ。又經濟を講じて紙と蠟の利を説き。之を封内に植へしめ。馬を蕃殖してその利を興す。最も紙工の難難を憚み。片紙と雖も決して濫用せず。又旅人の途に迷ふを懲み。下總の往還に松を栽へて路を標したのである。齊昭公もその志を紹いて均田の法を正し。最も心を經濟に用ひられたのである。或年封内大に飢ゆ。吏を召して曰ふ。倉廩未だ盡きずして餓へしめば。奚々民の父母たるにあらんやと。稗倉を開き富者の米を轉ヒ賣るの法を定め。自ら夫人と共に粥を食ふ。更に潔齋して神に祈る。斯くて封内の民餓を止めし。又或時人の土穀を業き軒を設け。以て不慮に備へんを説くや。牆壁は小舉なるも民力を勞するの恐あり。若し天命を失へば鐵牆といへども。何の益かあらんと答へたりと云ふ。彼が民政に力を致せるの狀知るべく。而して君道を思ふの國士は深く警省すべきである。

ヘ踏し。又或時人の土穀を業き軒を設け。以て不慮に備へんを説くや。牆壁は小舉なるも民力を勞するの恐あり。若し天命を失へば鐵牆といへども。何の益かあらんと答へたりと云ふ。彼が民政に力を致せるの狀知るべく。而して君道を思ふの國士は深く警省すべきである。

松陰先生か東に捕へらるゝの時。京都に於て宮闈を拜するの詩あり。

聞説今皇聖明徳。敬天愛民出三至誠。

と。この敬天愛民出三至誠の一旬は。君道を説き得て盡せるものである。因に貞觀政要の君道篇に載する所を見るに。初めに須彌先存三百姓と云ひ。次に明君と暗君との別に就て。兼聽と偏信とを論じ。次に守成と草業と仁が難きやを論じて。今草創之難既已往矣。守成之難者當思之與三公等慎之と説き。次に失道則失國を説き。次に厚徳を説き。次に納諫を云ふ。又六輔には文士が主をして尊く人をして安からしめんと欲す之を爲す如何と問ひしに。太公は一言にして之に答へ

たり。民を愛するのみ」と。君道の要諦は愛民を以て本と爲すこと。洵に分明である。

次に名教の國士を舉ぐるに就ては。名教の如何なる意義なるかを一言せねばならぬ。單に尊皇愛國の上に大義名分を明にするのみを以て名教とせば。斯かる方面の國士に限るべきなれど。名教の根本は御國體の擁護にあると同時に。廣く道義の綱要を提げ。深遠なる理想をも包含し。如何に思想の進歩するも學術の發展するも。國民の歸向を指示するに足るべき。健全にして包容的なる名教。統一を有して根本的な名教を取るべしとせば。この意義に於ての國士を求むべきである。予は後者の意義に於て道真公。日蓮上人。親房公。光園公等を擧げやうと思ふ。

道真公は菅家遺誠の中に記して曰く、

一凡神國一世無窮之玄妙者。不可取而窺知。雖學一凡國學所要。雖欲論涉古今。究天人。其自非和夷漢才。不能聞其間奧矣。

を包含し。共に御國體を擁護する力あるを云ひ。而して之を網の魚を捕ふるに比するに至つては。その妙味真に推すべきである。

日蓮上人は立正安國を唱へ。天晴地明を教へ。三道の眞申も。神國の玄妙も。高遠の理想と現實の調和も。絕對の信仰と尊皇主義の一一致も。皆悉く溶融し結合し來りて。玄々微妙の名義を開示せられて居る。後に聊か申述べやうと存ます。

光園公が名教の國士たることは。公が尊皇の大義を唱へて順逆の去就を詳にし。又經學を起して道義を講じ。更に佛教の腐敗を憤いて刷新を加へ。檀林を建てゝ教學を盛んにし。又神社を修理して敬神の道を明にし。風教を起して敦厚の俗を養ふ等。眞に得易からざる名教の國士である。而して光園公が養珠夫人に養はれ日蓮主義の感化を受けしことは。最も注目に値する點である。公の偉功は。朝廷の認むる所となり。明治三十三年に陞位せられ。且つ敕を賜はる。徳川光圀夙に公道の蘊時を憂ひ。武門の驕盈を懲れ。

と。彼の包容的にして漢士三代周公孔子の聖經を學ぶべきを云ひ。又論古今に涉りて天人を究めんと欲すと云ふ。以て儒教佛教をも包含せるを見るべく。殊に道真公は我國有數の學者にして。漢學に長じ篤く佛教を信じられたのである。故に三道を貫串して而かも統一の根本を御國體に置き。革命の國風は深く思慮を加ふべしと云ひ。又和魂漢才にあらざるよりは。その闡奥を開ふこと能はずと嚴説せられて居る。斯かる包容的の名教が。最も大切であると信じます。親房公は神皇正統記の中にこの理りをさとり。その道に達はずば内外典の學問も。爰に極まるべきにこそ。されどこの道の弘まるべき事は。内外典流布の力なりと謂ふべし。魚をうる事は網の一目によるなれど。衆目の力なければこれを得ること難きが如し。

と。文中この理りをさとりと云へるは。御國體を根本として他の學問を之に同化せしむべき主意である。偏狹の方に持ち行かずして。内典の佛教と外典の儒教とに復古の指南たり。

と。以て公が名教の國士たるを知るべきである。極陰先生の佛教を學ぶに至らざりしは。大に惜むべしと雖も。その襟度の淵遠なると讃見の非凡なるとは。名教の國士として尊敬すべきである。入江杉藏に與へし書に、

學問の筋目を糺し候事が誠に肝要にて。朱子學じやの陽明學じやのと。一偏の事にては何の役にも立不申。尊皇攘夷の四字を眼目として。何人の書にても何人の學にても。其長所を取る様にすべし。

と。文中學問の筋目を糺し候事が誠に肝要にてと云ひ。而して何人の書何人の學もその所長を取るべきを云ふ確かに包含と統一とを教へられたのである。その襟度その識見共に名教の國士たるに耻ぢずと思ふ。

次に政治に就ての國士は。内治としては多く封建を廢して親政を布くに於て。努力せられたのであつて、

尊皇と愛民とに於ける國士は即ち政治上の國士である。對外の側には林子平。渡邊華山。高野長英。佐久間象山等がある。岡千仞の評に、

我國論「外國之事」始ニ林友直。然友直憂ニ外國來寇。專論「防禦」要レ之不達。外國情實者。獨渡邊登、高野長英、佐久間啓能通彼此事情。

と。子平曰く憂ふべきものは唯だ邊防にして。一旦變あらば坐して風浪を萬一に待たんや。蓋し當年の志士が神風を頼みて國防を顧みざりしを嘲つたのである。又曰く天朝の幕府に於ける是れ一家の事。縱合變あるも亦猶夫妻枉庸の事のごときのみ。家を失ふに至らずと。是れ松陰先生が尊皇の功なく攘夷の功ありと謂ふ所以か。子平の海國兵談に曰ふ、

近自日本橋至三鄂羅斯阿蘭陀間ニ一水路無レ有ニ  
阻隔。

と。この一語海國の自覺を喚起せしめたるの功果して幾何ぞ。是れ亦忘るべからざる國士である。

憲法政治を實施する前後に亘りて。國事に盡碎せる

の人甚なからぬ。而かも今之を略するのである。

已上列舉するが如く。尊皇。愛民。名教。政治の四大綱目に就て。各時代に亘りて異彩を放てる國士は決して甚なからぬので。所謂歴史の成績は炳として日星の如くあります。而して今日の時勢を觀察する時。

この四大綱目の何れが最も振張せられて居るか。何れが弛廢の傾きを有するか。この點に向つて公正に靜思熟慮せねばならぬ。聊かこれ等の考察を遂げまして。現代の國士は日蓮主義と甚深なる關係ある所以を。申述べやうと存ますが。そは次回の會合に譲ることに致します。

#### 四、時弊の概觀

(已下は明治四十四年二月十二日天晴會講演)  
前回の講演に於て國士の本領と各種の特色とを申述べたのであります。本日は續講として時弊の概觀。救濟の方法。日蓮主義。結論の四箇條に就て所見を申述べる考であります。

前回に申述べました國士の本領として心懸けべき四

に融合せしめ得る。玄々幽妙の大思想を取つて之を一國の名教とせねばならぬ。唯物思想の結果は如何に人文化を災ひするか。且つ我國の尊皇主義に及ぼす影響如何をも考察して。心靈問題を敬重し。靈肉融合の妙致に於て。健全なる解決を有する名教を振張すべきであります。經濟觀念を鼓吹せざれば列國對峙の間に立つて。國權を擁護し國民の安寧幸福を増進する能はざるは論なき所であります。他面に經濟觀念に併ふて起る弊害。即ち人の心をして無下に卑しからしめ。又利己的思想の勃興して。幾多の美德を破壊し。延ひては尊皇の道念をも薄弱ならしむるの恐れあるを察知して。經濟思想の鼓吹と共に心靈問題を發揮し。精神の權と肉體の麁麯とを調攝したる名教を起さねばならぬ。これら等衆多の考察に於て。今日は未だ満足すべき一國の名教が振張されて居らぬのである。

愛民の施設の側から考察致しますれば。今日は憲法

政治を布れ國民參政の權を得て。年々議會は開かれ法律は議定せらるるので。愛民の施設は自から完全に行

はるべきであります。實際に就て觀察致しますれば。他の三大綱目側に對して。必然實行せねばならぬ事が。僅かに内務省の一局に於て近年多少の調査と獎勵を致されて居るに止まり。國家の設備として政治の運用としては。尙ほ未だ極めて不完全であり不充分であることは争ふべからざる次第で。従つて決して現状に安んじてはならぬのであります。

政治の皇張に就て觀察致しますれば。これ亦表面から見れば庶政日に張り月に揚がるの有様で。慶賀すべきが如くであります。退いて熟慮致しますれば。國民一般に倦怠の氣に襲はれ。政治機關に對する信用は年と共に薄らぎ。不安の念に驅れ不平の聲を放つの徒が増加しつゝあるやに思はるゝのであります。謂に政府が國政を執る上に於ても。議會が國政を議する上に於ても。未だ誠意が足ないのであるまい。何れにしても政治機關に對する人民の信用をもつと厚させたい。

を教へねばならぬ。然るに餘よりに散漫なる思想を注入し過ぎた爲めに。これ等の問題に就て簡にして要を得たる名教が失せて居る。餘よりに専門分業を極端に將ち行きたる爲めに。國民一般の心得べき堅實なる名教が忘れられて居るのであります。

人生問題としては個人主義と國家主義の背馳。世界思想と國家觀念の衝突。社會問題としては唯物主義と精神主義の反目。自由競争と共同生存の爭論。政治問題としては法律萬能と人格尊重の相違。法治萬能と德教尊重の論戰。

經濟問題としては優勝劣敗と相互扶助の軋轍。資本集中と資本散布の論争。富豪の跋扈と貧民の怨嗟の緩和。

道徳問題としては傳來道徳と新道徳の確執。現實主義と理想主義の反目。

宗教問題としては超國家主義と國家主義の論争。理想主義と現實主義の背馳。

これ等の問題に就ては融合すべきは融合を教へ。解

名教の確立に就て考量致しますれば。他の三大綱目に於ける缺陷よりは更に大なる欠點が存して居ると思ふ。それは何人にも看取せらるべき現代最大の弊害あります。故に國士の思を致すべき最先の問題は。名教の確立なりと信じます。

今日外面に暴露したる病弊の最大なるものは。懷疑思想の蔓延であります。懷疑の念は思想の混亂となり。不安の人煩悶の人を造り。自暴自棄の徒を出だし。不平と危險なる思想を續發するに至ります。而してこの懷疑の念を起さしめた原因は。極めて廣くして且つ深いのであります。この病弊を救ふて堅質なる信念を得せしむるには。最も健全にして且つ偉大なる名教を振起せねばならないのであります。懷疑の原因となるは。人生問題、社會問題、政治問題、經濟問題、道徳問題、宗教問題等であります。これらの問題に就て適當なる解決を與へて。國民に歸向する所

決すべきは解決を與へて。國民に歸向の針路を示さればならぬ。學說の研究としては自由なるべきは論なき所なるも。一國の名教を尊重する上に於ては。大體の針路を明示して國民を懷疑の淵に陥れぬやうにせねばならぬ。

而てこれ等の問題を融合し若くは解決せんとするには。尋常の政治家若くは普通の學者に一任すべきでない。必らずや國士の健全にして且つ熱誠なる努力に待たねばならぬ。これ等の問題は或はその根底が哲學宗教の領域に屬し。他面は政治經濟に連結して起るものあれば。又は政治と宗教。法律と人格とを事實の上に融合するを要し。國家經濟的根本的大問題に懸るもあり人性の本質を領得し人間の慾望を達觀して。富と權力と德教との結び付けに於て。解釋せらるべきものも存するのである。斯くての如くに根本的解決を要するものなれば。今日の時弊を救濟するには國士の奮闘努力に待つべきもの甚からずと信するのであります。

この各方面に起れる衝突、紛糾、反目、論争は。文

明の進歩に伴ふて發現する必然の結果であつて。一概に悲觀するにも及ばねば。又その一を取つて明りに他を排斥すべきものでもない。最も慎重なる考量を遂げて。確乎たる判断を與ふべきものである。

而して大體の着想としては。調和と統一とを目標として進み。吾人は立場を異にし職務を別にするも。國家を組織形成せる各種の要素を尊重して。健全なる發達を遂げしめねばならぬ。専門分業の一面の利益を見ても。相互の理解を交換するの大事を忘れてはならぬ。

偏屈な人間のみ多くなつて大體を會得せるものゝ少なくなり行き。而して一國の名教は果して何れに存するかを疑はしむるが如き。片輪な文明を押し建てゝはならぬ。前掲の問題に對して簡にして要を得たる信念を普及せしむべきである。政治家として宗教の健全なる信仰をも蔑視したり。宗教の靈妙なる作用が人生・國家の上に必要な所以を解せなかつたり。宗教家として政治の要諦をだに心得ず。理想の一端に驕られて現實人生の尊重すべき所以を知らなかつたり。富豪が飽迄

政治家の人格を指摘して憎惡の念を起さしめ或者は金力崇拜に流れて人の人たる眞價を認めず。或者は富豪の奢侈を悪んで漫うに之を痛罵し。借上の行為を忿りて之を膺懲せんとし。自己の生活難に對比して不平を抱き怨嗟を含み延ひて現代を咒詛するに至つて居る。是れ畢竟一國に嚴とした名教の存するなく。自由の見解と放縱の行為を恣にするより起るので。この自由と云ひ放縱と云ふも。その根元は懷疑より出發したのであって。懷疑は名教の荒廢より來つて居るのである。而してこの懷疑の病は消極的に發しては。意志の薄弱となり。不安となり。煩悶となり。精神衰弱者くは精神病者となり。又厭世自殺の愚を演するに至る。その精神的に現はれては。侮慢の精神となり。自由の誤解となり。自然主義となり。諸種の犯罪となり。慘忍なる殺人となり。秩序破壊となり。無政府共産主義者となり。死刑となり。怨恨となり。煽動となり。妄評となり。斯くて忌むべく厭ふべき幾多の丑象を續發し來るのである。古語に

衆疑無定國。衆疑無治民。疑定惑遠。國乃可安と。是れ則ち千古を照す格言であつて。又我國現代の時弊を喝破せるものではあるまいか。されば我國の時弊ふには名教に依りて疑を去り惑を解くことが最も急務であると信します。

爰に注意すべきは名教確立に就ての根本方針であります。前回の講演に於て聊々申述べて置きましたが。御國體を嚴守して歴史的發達を尊重すべきは勿論であります。尙ほこの上に現代に起れる諸種の思想をも適當に取捨排斥して。後にこれ等の思想や主義を承服せしめ満足せしめ得る。健全にして且統一的な名教を尊重せねばならぬ。

或者は教育新語若くは戊申詔書に依りて。一切の問題を解決するに餘りありとして。その敷衍と宣傳とに盡さんとし。或者は之に反して諸種の新思想を採用せんとして居る。この二個の潮流が適當に融合せられて居らぬ。

抑も今日起れる個人主義や世界思想と國家思想との

も拜金思想に流れ劣悪なる人格を賦するを知らず。共同生存や社會政策の何たるかを知らなかつたり。貧民が理由なき煽動を迎へて明りに不平と怨嗟とを抱き。何等人の努力と法悅の貴むべきを解せなかつたりするやうでは。到底國家をして健全なる發達を遂げしむことは出來ないのである。斯かる慙むべき愚蒙暗短の徒が甚なからぬやに見受けらるゝのは。一に國家の名教を等閑視したる惑源より來たつたのである。斯くて名教を無視したる結果は。國民の多數を騙つて懷疑の淵に陥らしめ。何等堅實なる信念なく。健全なる思想を缺き。東西に彷徨し新舊に踟躕して。その適従する所を知らず。個人主義はなるか。國家主義はなるか。世界思想非なるか。超世間的非なるか。これら等にすら明確なる決定を得ず。その甚しきに至つては社會主義無政府主義に對してすら。その批評とその判断を誤まるもの甚なからざるを見る。人心の危機此に極まると謂つべきである。或者は法律萬能を夢みて人格の基礎を忘れ。或者は法律の弊を悪んで信頼を絶ち。

も拜金思想に流れ劣悪なる人格を賦するを知らず。共同生存や社會政策の何たるかを知らなかつたり。貧民が理由なき煽動を迎へて明りに不平と怨嗟とを抱き。何等人の努力と法悅の貴むべきを解せなかつたりするやうでは。到底國家をして健全なる發達を遂げしむことは出來ないのである。斯かる慙むべき愚蒙暗短の徒が甚なからぬやに見受けらるゝのは。一に國家の名教を等閑視したる惑源より來たつたのである。斯くて名教を無視したる結果は。國民の多數を騙つて懷疑の淵に陥らしめ。何等堅實なる信念なく。健全なる思想を缺き。東西に彷徨し新舊に踟躕して。その適従する所を知らず。個人主義はなるか。國家主義はなるか。世界思想非なるか。超世間的非なるか。これら等にすら明確なる決定を得ず。その甚しきに至つては社會主義無政府主義に對してすら。その批評とその判断を誤まるもの甚なからざるを見る。人心の危機此に極まると謂つべきである。或者は法律萬能を夢みて人格の基礎を忘れ。或者は法律の弊を悪んで信頼を絶ち。

調和は如何にするか。法華萬能の思想と佛教尊重の精神とを如何に調攝するか。貧富懸隔の問題に就て如何に平和を維持するか。人生觀や社會觀の根底より起る懷疑は如何にして之を教ふべきか。これ等の問題に就ては單に形式的に勅語と詔書とを説明するのみにては満足せらるべきでない。さればとて明りに新思想を叫んで國家の歴史をも忘れ。又風俗習慣道德宗教をも顧みず。御國體の大本を輕視するが如きの自由論は。無論飽までも排斥せねばならぬ。

今日人心の動搖は前來開陳する如く。人生問題、社會問題、政治問題、經濟問題、道德問題、宗教問題等が錯綜して起つて居るので。勅語や詔書の敷衍宣傳に於ては。最も廣義に根柢的に拜讀して。その解釋をなすものが抱負と統一とを併有せねばならぬ。約言すれば我國今後の名教は。深き理念をも包含して。之を現實の國家の上に向はしむる主義を取るべきである。能く行き渡らるる名教を建設すべきである。天晴地明の大佛教を確立すべきである。立正安國の大主義を探して我國民は思想界の根據を失へるもの多かりし爲め。斯かる動搖と混亂を來たしたのである。維新政變にこの大失態を演じないで。能く心靈の問題を敬重して。その上へ西洋の文明を輸入したならば。適當の調査を示めして健全の文明を開發し得たであらう。眞に遺憾の極である。されど既往は悲ひも詮なし。今後コニ大反省をなして。この失態を償はねばなるまい。

而して何時の時代でも固陋なる古き思想と。輕佻なる新しき思想とが。適當に配合せられなければ。現代の如き時弊に陥るのである。然れども我國に於ては曾て斯ゝる經驗を経て。適當に配合統一の妙を示めしは。歴史の證明する所でありまして。現代に於てもこの玄妙を會得せる國士の起つて。この國難を拯ふべく努力するならば。必らずこの厄難を轉じて健全なる發達進歩を實現し得るは。堅く信じて疑はざる所であります。

我々佛教上の主義で申しますれば。華嚴の別教一乘の如く他を排斥したる孤立の國家主義でなく。法華の圓教一乘のやうに。他を開顯し統一したる包容的國家主

調和は如何にするか。法華萬能の思想と佛教尊重の精神とを如何に調攝するか。貧富懸隔の問題に就て如何に平和を維持するか。人生觀や社會觀の根底より起る懷疑は如何にして之を教ふべきか。これ等の問題に就ては單に形式的に勅語と詔書とを説明するのみにては満足せらるべきでない。さればとて明りに新思想を叫んで國家の歴史をも忘れ。又風俗習慣道德宗教をも顧みず。御國體の大本を輕視するが如きの自由論は。無論飽までも排斥せねばならぬ。

今日人心の動搖は前來開陳する如く。人生問題、社會問題、政治問題、經濟問題、道德問題、宗教問題等が錯綜して起つて居るので。勅語や詔書の敷衍宣傳に於ては。最も廣義に根柢的に拜讀して。その解釋をなすものが抱負と統一とを併有せねばならぬ。約言すれば我國今後の名教は。深き理念をも包含して。之を現實の國家の上に向はしむる主義を取るべきである。能く行き渡らるる名教を建設すべきである。天晴地明の大佛教を確立すべきである。立正安國の大主義を探して

用すべきである。斯くて聖旨に奉對し皇國を泰山の安きに置かねばならぬ。

謂ふに今日の弊害は。西洋の文明を輸入するに當りて。周到なる注意を怠り。名教に及ぼす影響如何を考慮せざりしやに基因して居るが。更に溯つて考察すれば。維新復古の際に於て。政治的根本方針に就て組織の大體に就て。心靈の問題も高遠なる宗教も併せて闇却し去つた。千古の大失態に原由して居るのである。而して斯かる大失態を來たせし所以は。徳川時代に儒者を崇拜したが。その儒者が偏狹固陋の徒であり。又神道流者に尊皇家が出たが。それが人生問題や抱負ある名教を忘れて。只皮相的見解を取つて、高遠なる思想の問題は凡て之を斥け。從つて佛教の如き最高最大の宗教。殊に我國に於て千數百年來歴史的發達をなせる大佛教を。理由もなく排斥して。菅公や親房が三道貫串の上に。和魂漢才を説き。網の一目を説ける精神を逸し去り。寔に孤立的皮相的の國家主義を採用した所へ。駿々として諸種の新思想が入り來り。斯等の病弊に注意して歐化的新思想の弊と。固陋な國家主義の弊と。淺薄なる道德觀の弊とを。共に匡正すべきである。斯かる意義に於て時弊を慷慨して起ち。愈々匪躬の節を致す者が。現代の國士である。而してその唯一の参考となり。指導者となり。好師友たるべきものは。實に日蓮主義そのものである。されば後に至つて日蓮主義の一端を申述べて。御指教を仰ぎたいと思ふのであります。

前來開陳するが如く。今の時弊は決して一二に止まらない。各方面に亘りて諸種の病害を蔓延せしめ。憂國の志士一日も緩すふるを許さるに至つて居る。而し

てその弊害の最も露骨にして且つ極端に發現したるもののは、無政府共産主義者の陰謀事件である。陰謀事件は既に法律上の處分を終りて、一段落を告げたるが如くなるも、今猶ほ同一の主義を抱く極端なる黨類が全くなくなつたかどうか。頗る戒慎せねばならぬ。然して善後の方に就て講究せらるゝ所果して如何。苟も國士をして任する人は、この現象の真相を觀破し、その病源を探究して、之を救済し之を根絶する方法を確立すべきである。

### 五、救済の方法

無政府主義は現代弊害中の最も露骨にして且つ極端なるものなるが、斯かる主義に心酔したる多數の陰謀者を出すに至つては、眞に驚愕に堪へませんが、更により大に悲むべきは、最後の方法に就て現はるゝ現象である。或者は政治上の野心より之を亂用して政府攻撃の材料に供し、或者は不健全なる人道主義を唱へて青年を惑惑し、又之を彰滅せんと期する人々も深くその原因を探究せずして、單に社會政策の一部に依らんと

し。今後の情勢に就て透徹の見を發表するものなきは、眞に慨嘆に堪へぬ次第である。

元來社會主義はその内容混血兒なれば、各方面に於る不平の徒若し一步を誤らば、彼等の黨類に走らんとするので、國士の憂惧戒慎を要するはこの點に存するのである。予は救済の方法を遺漏なく確立するには、佛教の四惡檀の方式に準じてその方策を取るべきを主張するものである。佛教には性質の惡なるが爲めに戒むる性戒あり。又性質としては惡ならざるもの、之を遮止せざれば遂に惡を犯すに至るが故に、之を戒むる遮戒なるものあり。而して惡を助成する縁となるべきものは、之を併せて戒めねばならぬとする。この意義から見て四悉種の方式を用ひれば、

救済の第一義には一點の要諦あり。即ち前に言る現代に適用する包容的統一的の名教を確立して、國民に歸向を誤らざらしむるにある。之が根本的不朽的の教法である。

救済の世界的方面には約八點の方策あり。一には政治機關の信用の回復である。廟堂と云はず議會と云ず。鮮佻の風を去つて誠意を持し、國民の信賴を強くするの、心懸けが大切である。二には社會政策の實行である。此は内務省に於て獎勵せられて居るが、一般の富豪は恐懼戒慎し大反省をなし。僧上の行為や侮慢の態度を來の學者は純理に囚はれ、學理は國の境を認めぬとか。宗教の尊重すべく。自己の地位の青年や平民に及ぼす影響を思ふて、一大猛省を要するのである。四には藝術家、文學の亂發。醜陋なる作品を耻ぢし語り。不謹慎なる言動が多いのである。自から名、自分は世界的に働くとか。調子外づれのことを得々として語り。不謹慎なる言動が多いのである。自から名、宗教の尊重すべく。自己の地位の青年や平民に及ぼす影響を思ふて、一大猛省を要するのである。四には藝術家、文學の亂發。醜陋なる作品を耻ぢともせぬ。美は獨立であるとか。善の干涉を受けぬとか。極端なことを云つて、道義や名教は如何なる職業に從事するとも、尊重せねば國民でないことが分らぬ。人として智情意の分離せられざるが如く、文明には眞善美の適當なる調和を要することを、分明に覺醒せねばならぬ。五には新聞記者の責任である。彼は貴重な

不健全な考では眞に申譯のないことである。現實と理想との融合も考へず。個人と國家との接合も思はず。碌々爲す所もなく。實社會の救濟に就ては殆んど願みる所なく。今尙ほ惰眠を貪ぼると云ふは、眞に悲しむべきの至りである。社會は縱し冷遇するとも。政府は何等待遇をなさずとも。自家の本領に生きて毅然として衆生濟度の天職に盡さねばならぬ。縱し學識は世に後れたりとも。一片の至誠、その本領に還らば。彼の魚屋八兵衛が國士の神牌を設けらるべきがやうに。一種犯すべからざる權威を有することが出來。從つて世に貢献することも出来るのである。八には一般人民の戒慎である。今の人の中に口を開けば不平を云ひ怨恨を吐くものあり。この世界無比の御國に生れ。古今に卓越せる聖天子を頂き。文明の度に於ても國力の發展に於ても。多く列強に讓らざるまでに至れる今日。何ぞ區々たる不平を事とせんや。昔の日本人よりは甘い物を澤山に食ひ。よき着物を着て。生活の趣味も大に増加して居るにも拘らず。漫りに歐米の惡思想に煽動

之を出たる町村は。或形式を以て謹慎を表すること。更に社會的制裁として説明すべきことは。他にも存するならんが。國民の道念に由つて適當の方法は發見せらるべき信するのである。

已上の點々が周密に行はれたならば。この悲むべき病弊をも幸に彌絶するが出来やうと思ふ。而して彼等の惑源が思想よりの產物であつて。又現代の他の各種の弊害を思想界より發現して居るのであるから。之に對する最先最要の救濟方法は。名教の振張にあると言を待たざる所である。この際區々たる私怨や熱情に驅られて。前述の救濟方法を等閑に附するあらば。この輩は正しく國家の罪人である。

### 六、日蓮主義

前段に開陳せし救濟方法に於る第一義的方法は。名教の確立にあるは分明である。又最初に申述べました現代諸種の弊害を救ふことも。名教の確立にあるは争ふべからざる所であります。さればその名教の確立は包容的統一的なものを採用し。思想界の偉大なる徳

せられ。無暗と人權を口にし生活難を語り。一も堅實なる思想を養はざるは。是れ大なる不心得である。自身の祖先は如何に美しき國民なりしか。如何に美しき徳教に歸依せしかを思ふて。衡愧の心を起さねばなるまい。

救濟の爲人的方面には二點ある。一には精神的啓發を試みて。彼等の謬見を反省せしむべき事。二には生活上の慰安を講じて。彼等が不平の動機を仔細に調査し極端なる思想に走らぬ前に。之を誘導せねばならぬ。救濟の退治的方面には三點ある。一には政治上よりの取締である。寛嚴宜しきを制すべきで。寛なるべきは寛に。嚴なるべきは嚴にして。彼の不謹慎なる野心家等の旨許に耳を假してはならぬ。個中の消息は最も温かき精神と最も嚴正なる道念とを以て當らねばならぬ二には毒思想の真相を國民に領解せしむべき事。雷同の如何に恐るべきを周知せしめ。萬一の場合に於て無謀の雷同を豫防せねばならぬ。三には社會的制裁を起さねばならぬ。隣保相警めてこの毒芽を除き。萬一

は今日の現なるべし」と。又曰く國亡び家滅びなば。佛をば誰か崇むべき法をば誰か信すべき。先づ國家を祈りて頗らく佛法を立つべし」と。凜乎たる明教千古を照して居るのである。

又哲學の絶對に關する誤解に就け。實相界に宛然たる差別を認めて。不平等の弊害を喝破せられて居る。上人曰く「只不二を立てゝ而二を知らず。已れ佛に均しと謂ふの大慢を成せり」と。又曰く「親を殺して子と用る。主を殺せる所從のしかも其の位につけるが如し」と。斯くて日蓮主義は汎神的の理論より更に進んで本佛と吾人とを。良醫と病子との關係に置き。飽まで醒悟と向上とを教へ。必然的干係は如何に融通するにもせよ。實際に精神的に慈醫と渴仰の接觸を得れば。轉迷開悟の實を得べからざる由を。懇切に教へられて居る。實に真盡し善盡せるものと謂ふべきである。唯物的思想の弊害の如きに至つては。上人が活動の上に心靈の靈火を放たれし實例に見ば。何人もその淺薄の見解を慚愧せざるを得まい。又個人思想と國家觀念の關係に於ても。大日本帝國は世界文明の最後を指導するの天職ありと確信し。日は東より出でゝ西を照すと云ひ。最大の佛教と無上の國家と。相合して世界の證明たるべきを教へて居らるゝ。日本は八萬の國にも超へたる國ぞかし」と云はれて。上人か抱負ある國家主義者なることは洵に明白なりと信じます。

政治に就ても治世語言皆顧正法を唱へ。王法佛法の冥合を説いて。各々その本領を守もり。而かも適當なる握手をなすべしを示められて居る。

經濟に就ても資生産業皆順正法と唱へ。欲をも離れて菩提を成する道の候なるぞ」と説き。經濟と道徳とを信仰の力に依りて融合せしむるのである。この信仰に由つて經濟と道德とを融合して。そこに微妙なる働きを起さしむるより外。決して麁鄙の問題を解決すべき良法はないと商量致しまする。

名教の外に更に前回に申述べました。尊皇。愛民。政治の上に。日蓮主義は光輝ある指針を與へて居るのであります。

### 七、結論

日蓮主義が名教の好師友であり。又尊皇。愛民。政治の三大綱目は就ても裨補する所甚なからざるを知り。而して現代の時弊とその救濟の方法とを審思熟慮致しますれば。現代の國士と日蓮主義との間には。甚大なる關係を有するは明白なりと信ずるのであります。上人が自から「法を知り國を思ふの志」最も賞せらるべき所にして仰せられしは。現に我が帝國の頭上を照して居るのであります。終に松陰先生が品川彌次郎君に與へられし書簡を讀んで。驚々匪躬の節を仰ばうと存じます。

何年ほど生きたらば氣が済むとか。先きの目途でもあることか。浦島武ノ内も今は死人なり。人間僅か五十年。人生七十古來稀。何か腹のいゑる様な事を遺つて死なねば。成佛は出來ぬぞ。

探も凡夫の浅猿さ。併歎を知らぬと。孔子曰志士仁人有殺身爲仁とか。孟子曰今之生取義者也とか云つて。見臺を叩て大聲をする健者もある。其うるさいを知らずに。一生を送るもある。足下輩もその付間なり。(終)

の融合に就ても。上人は御國體の君臣の間に存する微妙なる關係を發揮し。尊皇の大義を光揚せらるゝこと實に至れり盡せりと云ふべきである。更に人生は因縁所生なるを教へて。賢不肖貧富禍福の別あるは。單に社會組織の罪に歸すべからずして。如何に平等平均の制度を立つも。忽ち不平等の光景を呈するに至るべく。畢竟因縁生の上に差別あるが。人生の實なるを教へ。健全なる快悅に生くれば。萬人皆平等の快樂を享出し。又個人的欲望は根本より満足を得るが故に。進んで國家に貢獻する利他の精神を發揮し得ると教へられた。經に逮得己利と云ふことがある。信仰に生くる者は先づ自己の利益は全分満たさるゝが故に。利他の勝行に進むのである。上人曰く「おほけなく國土までとこそ思ひて候」と云ひ。「當世日本國に第一に富める者は日蓮なるべし」と云へるは。この自利と利他の思想の干係を語つたものである。これ又靈肉の干係をも示めすので。快悅に生くる者は平和満足を如何なる場合にも得らるゝのである。世界思想と國家觀念と

## 報道

## ◎ 東京教信

◎ 東京天晴會 二月十二日午後一時より大段  
書行社に聞く來會者五十餘名一月例會の標講  
として本多大雷正は日蓮主義と國士なる論題  
を擧げて過去に於ける歐洲各國に主張せられた  
る社會主義の系統及び其意義に就て歴史的  
に其経路を詳述し一括して宗教と哲學と經濟  
と政治と文學との混血兒なる洞破して單純  
なる政治經濟の二個問題のみなりとの評論は  
是れ形相淺薄の見解なるを告げ更に一段其  
歩を進めて根底より教治するの方案を講ぜざ  
可らずとて佛教解釋上の要義たる四悉種を教  
きて教義確立を第一義點と決し亦經濟政治機  
關の信説を採用するがため人情の修養天分の  
自覺を要望し更に爲人的には國民思想の啓  
發に最大の意を拂つて宗教的光明の裡に活け  
る生活を遂げしめ根本的に慰安の道を與ふべ  
く最後這一段に於て國民的惟直の態度を養ふ  
に努めて輕舉妄動の小人根性を矯正し最も應  
乎たる國民的氣風を發揚せしむべく國家及  
社會的の強き制裁に方あらしめねばならぬ所  
以を論明し而して現代危險思想の教治には尊  
王の大義愛民の教義名教の確立政治の應用は  
正に日蓮主義に依りて其實義を發現し得べき  
を以て大に参考とせざる可らずとて前後兩回  
に亘る四時間の講演は日々句々國土の風采態  
度を持して教説の發展する討論の力は常に常  
士は經年御涅槃の當年の實況を憶てしむべし  
とて悲壯を發揮して本堂の天井一面には經本  
モールを張り床の間にには椎と杉の葉にて該  
提河沙羅雙林の聖境を作り正面上には狩野元信  
画の涅槃想像を安置し前面には野口雷正の筆  
による大悲無窮の大文字を掲げ何とのう清淨  
の靈場に在りて佛陀偉大の靈格に親しするの  
感あらしめたり午前十一時一號鐘の鳴るや本  
多大雷正是大眾十數員を率ひて御寶刹に醍醐  
御書に云く佛さまの經を免がれて御成  
七十二歲佛社を設き始まられて四十二年と  
申せしに中天竺土舍城の祖寅者國幡山と申  
す山にて法華經を設き始められして八年ま  
で設かせ給ひて東天竺俱尸都城最提河の逃  
りにして御年八十と申せし二月十五日の夜  
半御涅槃に入らせ給ひき面りと雖御悟りな  
れば法華經と設きをさせ給へば此其の文字は  
此ち釋迦如來の御魂也一々の文字は佛の  
御魂なれば此經を行ぜん人をば釋迦如來御  
眼の如く守り給ふべし人の身に影のそへる  
か如くそばせ給ふらん

本門常住之三寶護法列位の諸天善神知見照  
覽

維時明治四十四年二月十五日六曜體諭詞し  
て恭しく五種の妙行を修し久遠資成大恩教  
主釋迦牟尼世尊の大涅槃釋恩會を舉行し奉  
る仰ぎ頼はくは此白善に願へては大慈大悲

◎ 東京天晴會 二月十二日午後一時より大段  
書行社に聞く來會者五十餘名一月例會の標講  
として本多大雷正は日蓮主義と國士なる論題  
を擧げて過去に於ける歐洲各國に主張せられた  
る社會主義の系統及び其意義に就て歴史的  
に其経路を詳述し一括して宗教と哲學と經濟  
と政治と文學との混血兒なる洞破して單純  
なる政治經濟の二個問題のみなりとの評論は  
是れ形相淺薄の見解なるを告げ更に一段其  
歩を進めて根底より教治するの方案を講ぜざ  
可らずとて佛教解釋上の要義たる四悉種を教  
きて教義確立を第一義點と決し亦經濟政治機  
關の信説を採用するがため人情の修養天分の  
自覺を要望し更に爲人的には國民思想の啓  
發に最大の意を拂つて宗教的光明の裡に活け  
る生活を遂げしめ根本的に慰安の道を與ふべ  
く最後這一段に於て國民的惟直の態度を養ふ  
に努めて輕舉妄動の小人根性を矯正し最も應  
乎たる國民的氣風を發揚せしむべく國家及  
社會的の強き制裁に方あらしめねばならぬ所  
以を論明し而して現代危險思想の教治には尊  
王の大義愛民の教義名教の確立政治の應用は  
正に日蓮主義に依りて其實義を發現し得べき  
を以て大に参考とせざる可らずとて前後兩回  
に亘る四時間の講演は日々句々國土の風采態  
度を持して教説の發展する討論の力は常に常  
士は經年御涅槃の當年の實況を憶てしむべし  
とて悲壯を發揮して本堂の天井一面には經本  
モールを張り床の間にには椎と杉の葉にて該  
提河沙羅雙林の聖境を作り正面上には狩野元信  
画の涅槃想像を安置し前面には野口雷正の筆  
による大悲無窮の大文字を掲げ何とのう清淨  
の靈場に在りて佛陀偉大の靈格に親しするの  
感あらしめたり午前十一時一號鐘の鳴るや本  
多大雷正是大眾十數員を率ひて御寶刹に醍醐  
御書に云く佛さまの經を免がれて御成  
七十二歲佛社を設き始まられて四十二年と  
申せしに中天竺土舍城の祖寅者國幡山と申  
す山にて法華經を設き始められして八年ま  
で設かせ給ひて東天竺俱尸都城最提河の逃  
りにして御年八十と申せし二月十五日の夜  
半御涅槃に入らせ給ひき面りと雖御悟りな  
れば法華經と設きをさせ給へば此其の文字は  
此ち釋迦如來の御魂也一々の文字は佛の  
御魂なれば此經を行ぜん人をば釋迦如來御  
眼の如く守り給ふべし人の身に影のそへる  
か如くそばせ給ふらん

聽説者肅然とした襟を正して傾聴するものありたるは可欣事と云ふべし次に佐藤海軍大佐は前回の標講として御國體に就ての講題にて御國體の萬古絕待の眞義を武き而して日本國民の特殊關係を論じ其一體不二の道より差別したる社會主義の系統及び其意義に就て歴史的に其経路を詳述し一括して宗教と哲學と經濟と政治と文學との混血兒なる洞破して單純なる政治經濟の二個問題のみなりとの評論は是れ形相淺薄の見解なるを告げ更に一段其歩を進めて根底より教治するの方案を講ぜざ可らずとて佛教解釋上の要義たる四悉種を教きて教義確立を第一義點と決し亦經濟政治機關の信説を採用するがため人情の修養天分の自覺を要望し更に爲人的には國民思想の啓發に最大の意を拂つて宗教的光明の裡に活ける生活を遂げしめ根本的に慰安の道を與ふべく最後這一段に於て國民的惟直の態度を養ふに努めて輕舉妄動の小人根性を矯正し最も應乎たる國民的氣風を發揚せしむべく國家及社會的の強き制裁に方あらしめねばならぬ所以を論明し而して現代危險思想の教治には尊王の大義愛民の教義名教の確立政治の應用は正に日蓮主義に依りて其實義を發現し得べきを以て大に参考とせざる可らずとて前後兩回に亘る四時間の講演は日々句々國土の風采態度を持して教説の發展する討論の力は常に常士は經年御涅槃の當年の實況を憶てしむべしとて悲壯を發揮して本堂の天井一面には經本モールを張り床の間にには椎と杉の葉にて該提河沙羅雙林の聖境を作り正面上には狩野元信画の涅槃想像を安置し前面には野口雷正の筆による大悲無窮の大文字を掲げ何とのう清淨の靈場に在りて佛陀偉大の靈格に親しするの感あらしめたり午前十一時一號鐘の鳴るや本多大雷正是大眾十數員を率ひて御寶刹に醍醐御書に云く佛さまの經を免がれて御成七十二歲佛社を設き始まられて四十二年と申せしに中天竺土舍城の祖寅者國幡山と申す山にて法華經を設き始められして八年まで設かせ給ひて東天竺俱尸都城最提河の逃りにして御年八十と申せし二月十五日の夜半御涅槃に入らせ給ひき面りと雖御悟りなれば法華經と設きをさせ給へば此其の文字は此ち釋迦如來の御魂也一々の文字は佛の御魂なれば此經を行ぜん人をば釋迦如來御眼の如く守り給ふべし人の身に影のそへるか如くそばせ給ふらん

聽説者肅然とした襟を正して傾聴するものありたるは可欣事と云ふべし次に佐藤海軍大佐は前回の標講として御國體に就ての講題にて御國體の萬古絕待の眞義を武き而して日本國民の特殊關係を論じ其一體不二の道より差別したる社會主義の系統及び其意義に就て歴史的に其経路を詳述し一括して宗教と哲學と經濟と政治と文學との混血兒なる洞破して單純なる政治經濟の二個問題のみなりとの評論は是れ形相淺薄の見解なるを告げ更に一段其歩を進めて根底より教治するの方案を講ぜざ可らずとて佛教解釋上の要義たる四悉種を教きて教義確立を第一義點と決し亦經濟政治機關の信説を採用するがため人情の修養天分の自覺を要望し更に爲人的には國民思想の啓發に最大の意を拂つて宗教的光明の裡に活ける生活を遂げしめ根本的に慰安の道を與ふべく最後這一段に於て國民的惟直の態度を養ふに努めて輕舉妄動の小人根性を矯正し最も應乎たる國民的氣風を發揚せしむべく國家及社會的の強き制裁に方あらしめねばならぬ所以を論明し而して現代危險思想の教治には尊王の大義愛民の教義名教の確立政治の應用は正に日蓮主義に依りて其實義を發現し得べきを以て大に参考とせざる可らずとて前後兩回に亘る四時間の講演は日々句々國土の風采態度を持して教説の發展する討論の力は常に常士は經年御涅槃の當年の實況を憶てしむべしとて悲壯を發揮して本堂の天井一面には經本モールを張り床の間にには椎と杉の葉にて該提河沙羅雙林の聖境を作り正面上には狩野元信画の涅槃想像を安置し前面には野口雷正の筆による大悲無窮の大文字を掲げ何とのう清淨の靈場に在りて佛陀偉大の靈格に親しするの感あらしめたり午前十一時一號鐘の鳴るや本多大雷正是大眾十數員を率ひて御寶刹に醍醐御書に云く佛さまの經を免がれて御成七十二歲佛社を設き始まられて四十二年と申せしに中天竺土舍城の祖寅者國幡山と申す山にて法華經を設き始められして八年まで設かせ給ひて東天竺俱尸都城最提河の逃りにして御年八十と申せし二月十五日の夜半御涅槃に入らせ給ひき面りと雖御悟りなれば法華經と設きをさせ給へば此其の文字は此ち釋迦如來の御魂也一々の文字は佛の御魂なれば此經を行ぜん人をば釋迦如來御眼の如く守り給ふべし人の身に影のそへるか如くそばせ給ふらん

◎ 東京天晴會 二月十二日午後四時より神田一橋通學士會に開けり例刻に至るや關田養叔君は日蓮主義と日本君臣の大義なる卓拔なる講演の下に例の雄壯快活なる廣長舌を振ふて平和と慰安と向上に充づる所以を説き多大の感動を與ふるものありたり同日本多大雷正は千葉縣尙風會の大講演に出席せられたるも更に一段其熱を高むるものありし也

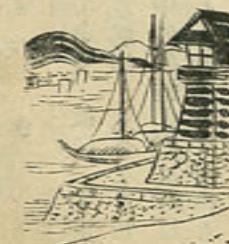
◎ 東京天晴會 二月十二日午後四時より神田一橋通學士會に開けり例刻に至るや關田養叔君は日蓮主義と日本君臣の大義なる卓拔なる講演の下に例の雄壯快活なる廣長舌を振ふて平和と慰安と向上に充づる所以を説き多大の感動を與ふるものありたり同日本多大雷正は千葉縣尙風會の大講演に出席せられたるも更に一段其熱を高むるものありし也

◎ 第一義會 二月五日第一義會開會講演を開く午後一時半大本尊の寶鏡に嚴格なる修法を行ひ石川顕師の講演ありたる後本多大雷正説智也君と本圓三上義徹君にてありし也

◎ 第一義會 二月五日第一義會開會講演を開く午後一時半大本尊の寶鏡に嚴格なる修法を行ひ石川顕師の講演ありたる後本多大雷正説智也君と本圓三上義徹君にてありし也

を詰するに當りて多くの歴史家勧玉家の所論を證し松上人の皇室に對する絶待服従の誠意と臣子の盡忠愛國の態度はいかに君臣の分を明かにする方を致したるかを知るに足るべく上人の快刀亂麻を駆つが如き君臣論は國體擁護の急感じつゝある現代には以て大に學ぶべきなりとて酒々一時間半に亘りて漫るゝ熟識を以て演了し暫時休憩の後高島平三郎君は忠愛心の養成と日蓮主義と云へる講題にて例の平易簡明の大難解によりて忠愛心の存在は我國の特色とする所なるも之を研究せばならぬと云ふに至てはいかに不安の状態にあらずやとの冒頭を置き現時の教育的施設に在りては實際的忠愛の民を養ふこと難き所以を詳論し今少しく皇室と國民の間親みの情を温め事實に理論に各方面に於て皇室の尊嚴にして雖有さな感ぜしむるの要を説き終り最後に日蓮上人の發揮したる意味の我的實現を促がして此の無限の時間内に在る一瞬時の我々は國家君主同胞の力に依りて發達を期し自己の大なる欲望的満足を求むると共に當然其反面に存する危機博愛の行動に出でべき心理的息を學術的に説明し上人の豊山淨土論及び事實上の信行は現實なる社會の理に著き意味の無人主義を發現して必ず正に忠愛孝悌の生き生活に入るを得べしとて歎頗多き現代には上人に學ぶ所懸ながいさる所以を述へ降臨別席にて會員一同の吹替あり座上にて松本幹事の所感あり談話室にて休憩本多日生君は著き意味の人主義はれ第2に於て主張し得るの所見を述

明治四十四年二月十五日  
○大阪教信  
◎大阪天晴會第八例會 一月二十九日夜  
より新年宴を兼ねて東區博効町二丁目魚利樓に於て開催、會衆二十二名、會場床の間に繁宮久蔵の筆に成る淡彩の聖影を掲げ、一同最敬禮の上開會、左の順序に依り講話な爲す  
本會と時事問題 日蓮主義研究の必要 池田爲三郎氏  
桜木 日種氏 松尾英四郎氏



京都聖祖門下國志會  
印度宗教事情 千里眼に就て  
透視實驗談 高瀬氏  
◎大阪天晴會第八例會 一月二十九日夜  
より新年宴を兼ねて東區博効町二丁目魚利樓に於て開催、會衆二十二名、會場床の間に繁宮久蔵の筆に成る淡彩の聖影を掲げ、一同最敬禮の上開會、左の順序に依り講話な爲す  
本會と時事問題 日蓮主義研究の必要 池田爲三郎氏  
桜木 日種氏 松尾英四郎氏

因するや、畢竟現時皮相の文明は社會をして輕薄情弱ならしめ不健全なる思想は国民を驅つて陰險非道の者たらしむ、噫社會の改善人心の指導に當るべき宗教家たるもの深く其責を負はざるべからず。往昔我祖日蓮大聖人佛祖の遺勅を奉て一大德教を擡げて鎌倉街頭に獅子吼し内に向つては繪寫せる思想の統一を宣し外に向つては逆臣北條の非道を責めて盛に大義名分を論す議論を下し給ふて協力一致日蓮主義の發揚を期し國體擁護之力を致すべく奮闘せられんことを「君の爲め國の爲め一切衆生の爲めに」而て建白す。

大運事件に就ての感想 清水 英吉氏  
右終て宴會に移り、底上本會評議員選定の議を決し、盡うに左の十名を選出する  
西島 竹藏 稲子 榮 因島 伊八  
野口 友七 山本 要助 八代祐太郎  
福井 秀吉 郡山庄兵衛 三宅房治郎  
島田小佐久  
夫より法華經並に雜誌の福引を呈はし一同歎を盡して教會セリ  
◎第九例會 二月十日午後七時大阪ホテルに開催、同日午後五時より幹事評議員一同晚會を催す、會務擴張の件に就て協定、尙ほ名譽會員、特別會員を特設することとし現任幹事及び評議員は擧げて特別會員となり、一時金三十圓以上若くは一ヶ月金一圓宛會費を納附し、以て本會の基礎を鞏固にせんと、さて定期より開會、會衆十九名左の講話あり  
上人の國家觀(其一) 上人の國家觀(其一)

(36)  
を詰するに當りて多くの歴史家勧玉家の所論を證し松上人の皇室に對する絶待服従の誠意と臣子の盡忠愛國の態度はいかに君臣の分を明かにする方を致したるかを知るに足るべく上人の快刀亂麻を駆つが如き君臣論は國體擁護の急感じつゝある現代には以て大に學ぶべきなりとて酒々一時間半に亘りて漫るゝ熟識を以て演了し暫時休憩の後高島平三郎君は忠愛心の養成と日蓮主義と云へる講題にて例の平易簡明の大難解によりて忠愛心の存在は我國の特色とする所なるも之を研究せばならぬと云ふに至てはいかに不安の状態にあらずやとの冒頭を置き現時の教育的施設に在りては實際的忠愛の民を養ふこと難き所以を詳論し今少しく皇室と國民の間親みの情を温め事實に理論に各方面に於て皇室の尊嚴にして雖有さな感ぜしむるの要を説き終り最後に日蓮上人の發揮したる意味の我的實現を促がして此の無限の時間内に在る一瞬時の我々は國家君主同胞の力に依りて發達を期し自己の大なる欲望的満足を求むると共に當然其反面に存する危機博愛の行動に出でべき心理的息を學術的に説明し上人の豊山淨土論及び事實上の信行は現實なる社會の理に著き意味の無人主義を發現して必ず正に忠愛孝悌の生き生活に入るを得べしとて歎頗多き現代には上人に學ぶ所懸ながいさる所以を述へ降臨別席にて會員一同の吹替あり座上にて松本幹事の所感あり談話室にて休憩本多日生君は著き意味の人主義はれ第2に於て主張し得るの所見を述

得己利の文を引詣して高島君の所論を證し松本邦護士は難詰白猿等の付箋相承論に對して其所信を披拂し日蓮門下統一の現代に於て心得難しとして其覺醒を促かすものありて所談大に進みしも午後十時半を報じたれば數多を告げたり當日子爵板倉謙定君實業家等開闢助君は入會せられ。

### ○神奈川縣教報

小田原町妙經寺住職有田高道師及び祖家越代人高橋久五郎、飯田榮助、小澤樹吉、増田勘左衛門岡崎勇次郎關利豐初田房次郎、宮田友吉の諸氏發起となり二月十九日午後一時當司第二小學校に於て本宗管長窓下を招請し地方改良に關係する大講演會を開催せらるゝ旨

品川を發し九時廿四分國廢津下住佳賀達代等の出席を受け十時半妙經寺に着す。

開會の辭 教育勸語捧讀 有田宏道師

石川足病下郡長 所感 同人

人 石川顯慶師

地方改良に關する予の意見 本多管長窓下

當日石川管長始め當町重立百六十有餘名の聽衆は約一時間半に涉る現下の深刻なる講演に對執れも未嘗有の感動を呈せり

同日午後六時半よりは、妙經寺に於て講教會開會

有田山主 有田山主

高原右教師

京都の聖祖門下某宗管長大僧正某親下に京都市の聖祖門下同志會に現代病窮の教治は右終て宴會に移り、底上本會評議員選定の議を決し、盡うに左の十名を選出する  
西島 竹藏 稲子 榮 因島 伊八  
野口 友七 山本 要助 八代祐太郎  
福井 秀吉 郡山庄兵衛 三宅房治郎  
島田小佐久  
夫より法華經並に雜誌の福引を呈はし一同歎を盡して教會セリ

○第九例會 二月十日午後七時大阪ホテルに開催、同日午後五時より幹事評議員一同晚會を催す、會務擴張の件に就て協定、尙ほ名譽會員、特別會員を特設することとし現任幹事及び評議員は擧げて特別會員となり、一時金三十圓以上若くは一ヶ月金一圓宛會費を納附し、以て本會の基礎を鞏固にせんと、さて定期より開會、會衆十九名左の講話あり

上人の國家觀(其一)

石川顯慶師

本多管長窓下

夜分は寒氣強かりしに拘らず非常の盛會にて聽衆孰れも多大の法性に浴せり

因みに當地は各宗寺院比較的多數なると精神的活動に從事する者絕無なるに妙經寺住職有田師は赴任日角は浅きに拘らず他に率先して今回之講演を開催し此地の人々を以て今までこんな有趣いお話を聞いた事がない、「宗教はそー云ふものか」此の次はいつありますか」と云ふ教へに対する潤仰の念を抱ひしむるに至りしは宗教家の本分を盡せりと云ふべし今後一段の奮闘ある事事を至嘱く。

### ○京都教報

京都市の聖祖門下同志會に現代病窮の教治は右終て宴會に移り、底上本會評議員選定の議を決し、盡うに左の十名を選出する  
西島 竹藏 稲子 榮 因島 伊八  
野口 友七 山本 要助 八代祐太郎  
福井 秀吉 郡山庄兵衛 三宅房治郎  
島田小佐久  
夫より法華經並に雜誌の福引を呈はし一同歎を盡して教會セリ

○第九例會 二月十日午後七時大阪ホテルに開催、同日午後五時より幹事評議員一同晚會を催す、會務擴張の件に就て協定、尙ほ名譽會員、特別會員を特設することとし現任幹事及び評議員は擧げて特別會員となり、一時金三十圓以上若くは一ヶ月金一圓宛會費を納附し、以て本會の基礎を鞏固にせんと、さて定期より開會、會衆十九名左の講話あり

上人の國家觀(其一)

石川顯慶師

本多管長窓下

夜分は寒氣強かりしに拘らず非常の盛會にて聽衆孰れも多大の法性に浴せり

因みに當地は各宗寺院比較的多數なると精神的活動に從事する者絕無なるに妙經寺住職有田師は赴任日角は浅きに拘らず他に率先して今回之講演を開催し此地の人々を以て今までこんな有趣いお話を聞いた事がない、「宗教はそー云ふものか」此の次はいつありますか」と云ふ教へに対する潤仰の念を抱ひしむるに至りしは宗教家の本分を盡せりと云ふべし今後一段の奮闘ある事事を至嘱く。

### ○京都教報

京都市の聖祖門下某宗管長大僧正某親下に京都市の聖祖門下同志會に現代病窮の教治は右終て宴會に移り、底上本會評議員選定の議を決し、盡うに左の十名を選出する  
西島 竹藏 稲子 榮 因島 伊八  
野口 友七 山本 要助 八代祐太郎  
福井 秀吉 郡山庄兵衛 三宅房治郎  
島田小佐久  
夫より法華經並に雜誌の福引を呈はし一同歎を盡して教會セリ

○第九例會 二月十日午後七時大阪ホテルに開催、同日午後五時より幹事評議員一同晚會を催す、會務擴張の件に就て協定、尙ほ名譽會員、特別會員を特設することとし現任幹事及び評議員は擧げて特別會員となり、一時金三十圓以上若くは一ヶ月金一圓宛會費を納附し、以て本會の基礎を鞏固にせんと、さて定期より開會、會衆十九名左の講話あり

上人の國家觀(其一)

石川顯慶師

本多管長窓下

夜分は寒氣強かりしに拘らず非常の盛會にて聽衆孰れも多大の法性に浴せり

因みに當地は各宗寺院比較的多數なると精神的活動に從事する者絕無なるに妙經寺住職有田師は赴任日角は浅きに拘らず他に率先して今回之講演を開催し此地の人々を以て今までこんな有趣いお話を聞いた事がない、「宗教はそー云ふものか」此の次はいつありますか」と云ふ教へに対する潤仰の念を抱ひしむるに至りしは宗教家の本分を盡せりと云ふべし今後一段の奮闘ある事事を至嘱く。

# 大僧正本多日生祝下講述

## 法華經講義

序 洋 製 美 本  
如來壽量品

正價金五拾錢  
郵稅金六錢

抑も宗教學上の根本問題は何であるか、即ち宇宙觀と人身觀と超人觀の三種である、故に、宇宙の成立と其實相、吾人の本體と其向上、超人の本體と其力用とに關する、圓滿なる解釋と完全なる知識を得ることが出來ないならば、即ち人生及び自己生存の意義が解らぬので、夢中の生涯と謂はねばならぬ、されば斯の重要問題に就ては、多くの宗教學者が探究研討して居るのであるが、未だ何れも適當なる結論を見出さない、若夫完全にして適切なる解釋を示せるものがあるならば、直ちに進で研鑽すべきことである、即ちそれは一切宗教中、大聖佛陀の說き給ひし法華經に於て光顯せられて居る、法華經の實相觀は、即ち宇宙觀にして萬有の本體活動等を論明し、人開會は人身觀にして、吾人の本體と其向上の狀態を説明し、佛陀の顯本は超人觀の妙致を顯はせるものであつて、佛陀の本體と妙用とを圓滿に説かれてある、而して法華經中如來壽量品には、極めて明確適切なる解釋を示されて居る、本書は大僧正本多日生祝下、畢生の熱誠と卓越の識見とを以て御講述になられたのである、故に一たび本書を繙かば、明かに古來未解決の大問題を領解するに到り、意義ある人生に處して、光りある活動と向上とを遂ぐるであらう。

## 發行所

四月八日發行  
第一版に限り金參拾錢を以て特賣す

東京市淺草區北清島町十四番地

統

(振替口座東京一二一九)

團

## 勤行作法

一 諸代金五錢十銭以上一割引郵便四  
部每回金二錢三十錢以下五厘郵便四  
用不苦  
振替口座東京一二一九統一團完

## 宮殿須彌段 前机・幢幡 大机・販賣

御來店の節は陳  
列場へ御來車被  
下度是れ迄とは  
一層勉強仕一切  
各宗の佛具陳列  
仕置候



## 附價二法堂佛具發賣目錄

佛具と贈すれば此の種類數品有之候を以て御講文の如き最も簡潔にして

左の通り小包條附(郵券四錢)

諸君は依て特に拂事正價附發賣品有之候を以て御講文の如き最も簡潔にして

右は各派統一の理想の下に本多日生師の編纂せられた

るものにして、御講文の如き最も簡潔にして

而も其要義を逸せず總振假名付なれば初心の行者の所

用として最も適切なるもの也客月來頒與の求めに應ず

るを得ざりしも今回さらに印刷に付し製本出來致し

般信徒の爲めに之を頒たんとす、御入用の方は前記代

金を添へて御申込あらば御送可致候也。

## 發行所

東京市淺草區北清島町十四番地

妙教婦人會

毎月一回十五日發行、一部金六錢  
五錢郵稅六錢代金ハ振替附金口座東京一二一九番ヘ拂込マレ  
タシ此場合ニハ誌料ノ外ニ金壹錢ヲ添付相成度候

明治四十四年三月十五日印刷發行

發行人 井村日成

編輯人 山根日東

印刷人 沢木日延

東京市淺草區北清島町十四番地

## 發行所

東京市淺草區北清島町十四番地

團

御板三歳子  
賀見  
御具金  
物全  
能な  
高風  
自山  
京都市  
通大橋  
西入  
佛具卸  
部同  
市三條  
特電話  
二千七百八拾三番  
金番號  
大阪二  
四二五九  
二〇七九  
次

●小賣部

同大橋西入

二法堂

佛具陳列場

總

藤田總次

洋  
製  
美  
本

# 統一



號四十九百第

祖書研究に就て

大僧正

本多日生師

生

文學博士

死

姉崎正治君

維摩經の異彩

加藤晴堂君